

第7回日独通訳者養成セミナー

2018年2月24日（土）初日「2025年ショック！医療と介護は？」（日→独）

セッションの進め方

事前に通知されたリンク（www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/100/267288.html）にある内容を相澤先生が適当に区切りながら読み上げ、それをペアになったパートナー同士で順番にドイツ語に訳出。それと同時に希望者が前に出て順番にカメラの前で通訳をし、全ての通訳が終わった後に録画画像を見てコメントを出した。

1. 単語・言い回し等

①「今回のテーマは」から「最も対応に迫られる分野の一つが、医療と介護です。」まで

・「対応にせられる分野」：“der dringende Bereich”とは言えないので、“Bereich, der dringend bearbeitet werden musste...”等に言い換える。

・「医療」：“Behandlung”だけでは不明確なので“medizinische Behandlung”とした方が良い。

・「75歳以上」：“über 75 (und älter)”

・「超高齢化」：“Überalterung”というより“alternde Gesellschaft”の方がやわらかい表現になる。

②「その医療と介護にかかるお金」から「そのための議論も見てみます。」まで

・「医療と看護をもっと密接に連携させる」：“zusammenwachsen”ではなく、“verzahnen”、“aufeinander abgestimmt”、“mehr Hand in Hand arbeiten”と表現すべき

・「（医療にかかる）お金」：“Geld”ではなく、“Mittel”または“Gelder”とすべき

・「社会」：文脈により“Gesellschaft”、“soziale Wohlfahrt”、“Alltagsleben”等、訳が違ってくるので注意する。

・「問題」：“Problem”ではなく“Frage”、“Herausforderung”等、一番適する言葉を選ぶこと。

・「医療報酬と介護報酬（の同時改定）」：ここでは官庁が決定する事項であるので、“Behandlungs- und Pflegekosten”ではなく、“Behandlungs- und Pflegesätze”とするのが正しい。

・「お年寄り」という言葉は使わず、必ず「高齢者」または「シニア」と言い換えること。

③「まず、医療と介護の同時改定とは」から「こういうことです。」まで

・「同時改正」：ここでは“Änderung”や“Erneuerung”や“Novellierung”というほど大規模なものでもないで、“Anpassung”または“Überarbeitung”とする。

・「医療と介護の政策転換」：“Reform”というほど抜本的なものではないので、“neue Regelung” または“neue Festlegung”とした方がいい。

④「まず、日本の人口の構成です。」から「大きな塊が生まれます。」まで

・「2025年」：“in 2025”ではなく“2025”または“im Jahr 2025”。

・「ピーク」：“Höhepunkt”でいいが、前文の「まず、日本の人口構成です。」と「御覧のように、日本の人口は2004年をピークに、～」を一つの文として繋げて訳してしまったため、人口構成“Bevölkerungszusammensetzung”とピーク“Höhepunkt”がかみ合わなかった。「まず、日本の人口構成です。」で一度文の繋がりを切って訳出すればよかった。

・「全体では」：“im Totalen”ではなく“insgesamt”とする。

⑤「国民の5人に一人が」から「およそ5倍の医療費がかかる計算です。」まで

・「社会保障費」“Sozialversicherungskosten”は複数形なのに動詞が“wird”と単数形になっていた
ので注意すること。

・原文通りの順番ではなく、「5倍の医療費がかかるという」点を先に訳出し、その後に具体的な医療費の比較をした点が聞いていて分かりやすくよかった。

・「64歳まで」：“unter 65”

・「超高齢化社会」：“Überalterung”は辞書から削除したほうが良い。代わりに“supergealterte-”、“hypergealterte-”、“megagealterte Gesellschaft”等の案が出る。

⑥「また介護費は、」から「およそ1.3倍に膨れ上がると、推測されています。」まで

・「年金」：“Rentenbeiträge”と訳出していたが、正しくは“Rente”のみ。

・医療費の話から介護費の話に移ったのが明確に伝わった点が良かった。

・「1.3倍」：“1,3 Fach”というよりも“um 30 % erhöht”と訳した方が分かりやすい。

⑦「社会保障のお金は」から「ということが避けられなくなります。」まで

・「消費税」：“Umsatzsteuer”ではなく“ Mehrwertsteuer”とする。

・「消費税増税が二回続けて延期されて」：“vertagt worden”ではなく“aufgeschoben worden”

・消費税増税延期→社会保障費がただでさえ苦しい状況→自己負担が避けられないという話の流れが訳出では不明確だったので、全体の構造を頭に入れながら訳出することが大切。

・ドイツでは税金を社会保障費にあてていないので、日本では増税＝社会保障費にあてるということを一言説明した方がよかったですのでは。

⑧ 「しかし、それでも」から「自宅や地域で治す、『地域完結型』の医療です。」まで

・「地域で治す」：“Region”ではなく“lokale Gemeinschaft”、“lokal verwurzelt”、“im häuslichen Umfeld”のように訳出した方がよい。

・「（病院や介護施設の）人手不足」：“Personalmangel”ではなく“Mangel an Arbeitskräften”の方がいい。

⑨ 「どういうことかといいますと、」から「『治し・支える医療』が必要となってきます。」まで

・「在宅で（病気を）治す」：“Hauspflege”だと家の建物の修理やケアのことに聞こえるので、“häusliche Pflege”とする。

・「慢性疾患」、「持病」：敢えて違いを出すなら“chronische Erkrankung”、“langwierige Erkrankung”としてもいいが、どちらも“chronische Erkrankung”でも問題はない。

・「社会復帰」：“Rehabilitierung”、“Rehabilitation”としてしまうと犯罪からの更生というニュアンスが強くなってしまいが、ここでは「日常生活に戻る」の意なので、“wieder am alltäglichen Leben teilnehmen”、“in den Alltag zurückkehren”のように訳出した方がよい。

⑩ 「これが、『病院から在宅へ』」から「差があることが問題になっています。」まで

・「在宅医療」：“häusliche Krankenversorgung”、“medizinische Versorgung zu Hause”、“häusliche Krankenpflege”

・「看護」と「介護」という言葉は非常に近い、違いが曖昧な言葉。ドイツ語では看護師は Krankenpfleger/in、介護士は Pflegekraft のよう区別する必要がある。

・「政策転換」：“politische Umwandlung”だが、“politisch”を抜かして“Umwandlung”のみ訳出したため、意味がよく分からなかった。“politischer Paradigmenwechsel”、“politischer Neuausrichtung”または“politischer Richtungswechsel”とも訳出可能。

⑪ 「在宅医療を利用した」から「そこが大きな課題となっているわけです。」まで

フィードバックは特になし。

⑫ 「では、厚生労働省の」から「という意見なども出ました。」まで

担当者が帰宅のためフィードバック省略

⑬ 「そして、もう一つ」から「病院の別途が足りなくなります。」まで

- ・ “der”の発音が“die”に聞こえたので注意。
- ・ 「見通し」：“Prognose”という言葉は過去の数値には使えない。ここでは2015年と2025年の数値が挙げられているので、“Prognose”とは言えない。
- ・ 「今は8割の人が病院で亡くなっていますが、」：“Mittlerweile...”と文を始めていたが、“mittlerweile”や“inzwischen”という副詞は、過去の数値を比較する場合に使用する言葉なので、ここでは“Im Moment”や“Zur Zeit”とすべき。
- ・ 「最期」：“seine letzte Stunde”ではなく“seine letzten Stunden”
- ・ 「超高齢社会は、亡くなる人が急増する、いわば『多死』社会でもあります。」：“Mit der Alterung der Gesellschaft nimmt die Zahl der Todesfälle drastisch zu.”
- ・ “sterben”と“verstorben”の違い：“sterben”＝「死ぬ」で“verstorben”＝「亡くなる」に近いのではないか。家族には“gestorben”を使うが、人間関係に距離がある場合は“verstorben”ということが多い。但し、形容詞として使う場合には、“mein verstorbener Vater”のように“verstorben”を使う。

⑭ 「この問題については、」から最後まで。

- ・ 「介護施設」：“Institution”ではなく“Pflegeeinrichtung”となる。
- ・ 「最期を迎える」：“letzten Stunden erleben”ではなく、“letzten Stunden verbringen”とする。
- ・ 「本人の意思には関係なく」：“unabhängig von ihren Willen”、“ohne Rücksicht auf ihren Willen”
- ・ 「病院に搬送する」：“ins Krankenhaus schicken”ではなく動詞を“verlegen”、“transportieren”、または“gebracht”とした方がいい。
- ・ 「この問題そのものがまだまだ国民には広く知られていない、」：“das Problem ist noch nicht anerkannt”では「認められていない」の意味になってしまうので、“noch nicht erkannt”または“die Bürger haben noch kein Problembewußtsein dafür”とすると良い。
- ・ 「いずれにしても、始まった議論から見えることは、」：“Übrigens”ではなくここは、“Zusammengefasst”が適当。

2. 通訳パフォーマンス全般

- ・ カメラ目線で話すと説得力があるので、通訳の際のアイコンタクトは重要。
- ・ 逐次通訳の際は常に見られていることを意識し、姿勢を正しく、座っている場合でもひじはつかないように注意する。

- ・常に体を動かしていて落ち着きがないと目立つので注意する。
- ・声のトーンが落ち着いていると、安心して聞くことができる。
- ・メモをしながら内容の構造を考え、どのようにしたら分かりやすく伝わるかに気を使うと話の流れや内容が理解しやすい訳出ができる。